

### ★令和7年度生徒会活動報告★

令和7年度もスタートし、生徒会活動も4月から忙しく活動をしています。SAH 事業が始まってから生徒たちの行事運営の姿勢も変わってきたように感じられます。年間にある生徒会行事についても、「指示を待って行動する」のではなく、「自ら考え、トラブルが起きても柔軟に対応する力」を発揮しているように感じられます。今回は年間にある行事の取り組みやアイス自販機のルールを周知している様子、また、生徒会長の意気込みを紹介していきます。

#### <<上級生との集い>>

4月9日(水)、「上級生との集い」は生徒会本部役員が1年生のクラスに出向き、前半部分では、生徒会が考えたアイスブレーキングとしてのゲームを行い、後半部分では、前南の先輩として、学習方法や生活面についてのアドバイスをを行います。生徒会の中で、役割を決めて、運営している様子が今年度もうかがえました。



#### <<対面式・新入生歓迎会>>

4月10日(木)には「対面式・新入生歓迎会」が行われました。対面式では新入生を迎え入れるセレモニー、新入生歓迎会では各部活動の創意工夫をこらした出し物をし、新入生にアピールをしていました。生徒会は昼休みなどを活用し、準備やトータルリハーサルを行いました。

#### <<アイスクリームの自販機のルール徹底>>

「アイスクリームの自販機」を導入してから2年目にもなり、今年度入学した1年生は導入した時の経緯や苦労は知らず、今前南にアイスの自販機があるのが当たり前になっています。当たり前の中でも、生徒会が作成したルールを周知してもらうために、必ず4月中旬に1年生の各クラスを回ってルールの説明、また集会でもルールの徹底について呼びかけています。これからは暑くなっていくので、アイスの自販機のルールを徹底して、前南全体で正しく使っていきましょう！



#### 生徒会長(3年4組腰高 紗依) 振り返りと今後の抱負

「どうしてそんなに生徒会活動、SAH活動を頑張るの?」とよく聞かれます。でも、私は上手く答えることができません。見返りが欲しいわけでもなく、誰かに頼まれたわけでもない。何が自分の原動力となっているのかわからなくなる時がよくあります。ただ、気づいたら夢中になっていることが多く、そんな「説明できない熱量」が私を突き動かしています。自分で考え、判断し、行動をすると上手いかない時が多く、悩むことが多いです。それでも、諦めないのは何気ない自分の発言や私たちが起こした小さな変化がちゃんと届いていると実感できているからです。身近な人からの「ありがとう」、私たちの活動を見てくださっている様々な方からの「すごいね」という言葉。このような言葉をいただく度に心が温かくなってもっと誰かのために動きたいと思えます。感謝を言わなければいけないのは私の方です。どれだけ悩んでも前を向けるのは、支えてくれる皆さんがいるからです。今までの様々な経験を通じて自分の中に積み重ねてきた非認知的な力はかけがえのないものになっています。これからはそのような目に見えない力を、「自分の中にとどめる」のではなく、「多くの人に広げていく」ことを大切にしていきたいと感じています。自分の中であやふやになっていた原動力をもう一度見直し、自分の中にある「説明できない熱量」を誰かに伝え、誰もが持っているエージェンシーに火をつけられるような存在でありたいと思います。自分の熱量を信じて、皆さんの支えを頼って、残り少ない生徒会長の任期を最後まで全力で駆け抜けます！！！！

<教頭より>「思い」や「精神」、「機知」のことをフランス語で「エスプリ」と言います。どんなに素晴らしい制度やルールが確立しても、「エスプリ」がなくなっていったり、継承されなかったりすると制度やルールは形骸化し機能しなくなっていきます。生徒会を中心に上級生で、ルールだけでなく「エスプリ」を1年生に伝えていってください。それが継承された時、前南の歴史、伝統、風土となります。1年生も入学して当たり前に見えるモノや行事のいくつかは、実は先輩たちの「エスプリ」によって生まれたということを感じとってほしいです。(長岡将之)

<校長より>エージェンシーとは「人が誰しも生まれついて持っている自分と社会をより良くしようと願う意思、原動力」です。前南では先輩達がエージェンシーを発揮し、いくつかのことを成し遂げてきました。その中には、「アイスクリームの自動販売機使用のルール」や「前南ニューススタイル」等のルールメイキングがあります。これらのルールは先輩達が時間をかけ、苦労をしながら制定したものです。これらのルールは制定の時だけでなく、それを守り、継承していく人たちにもエージェンシーの発揮を求めます。「先輩達の思いなんて関係ないや。」という者がいれば、ルールは簡単に崩れ、皆さんは手にした権利を手放すことになるでしょう。皆さんが権利を手放さないためにはどうしたら良いか、先輩達の思いを知り、「自ら考え、判断し、行動する」ことを望みます。(原 拓史)